

# 第 1 回 自分らしい暮らしの支援に向けて

## 「地域包括ケアシステム構築におけるリハ職の役割」& 「自立支援につながるケアマネジメントのポイント」

平成 29 年 9 月 27 日 in 白井市保健福祉センター 団体活動室

4 年目を迎えた白井市在宅医療・介護連携研修会ですが、今年度から研修企画ワーキングを立ち上げ、多くの医療・介護職の方にメンバーとしてご参加いただいています。

ワーキングでは多職種の連携を推進させていくために、研修会でどのようなテーマを取り上げたらよいのか検討を重ねています。職種ごとの役割をお互いに理解し合うことや各職種の資質向上を図ることなどを目的に、今年度の研修計画をたてています。

今回は、リハ職とケアマネジャーを対象に「地域包括ケアシステム構築」の目的を再認識するとともに、「自立支援」のあり方やリハ職としてケアマネジャーとしてこれから何を重視すべきなのかをねらいとして開催しました。講師には、一昨年に引き続き千葉リハビリテーションセンター地域連携部部長の田中康之氏をお招きいたしました。

研修後半のグループワークでは、「切れ目のない支援を行うために、入退院時支援に何が必要か」について話し合いました。

お忙しい中ご参加いただいた 42 名のリハ職とケアマネの皆様、ありがとうございました。

### ≪ 第 1 部 講演 ≫

#### 「地域包括ケアシステム構築におけるリハ職の役割」& 「自立支援につながるケアマネジメントのポイント」

千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部部長  
一般社団法人 千葉県理学療法士会会長

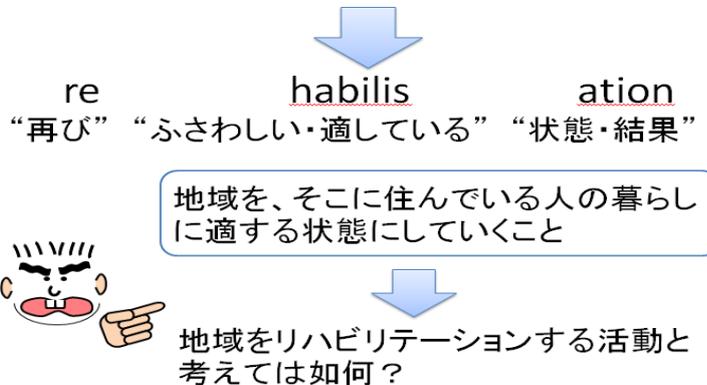
田中 康之 氏

#### 「講演内容」

- ・地域リハビリテーションの考え方
- ・地域リハビリテーション活動支援事業について
- ・病院・施設のリハ職に求められる力、役割
- ・高齢者のリハビリテーションに大切な視点
- ・ケアマネにとって、「自立支援」を意識したアセスメントのポイント

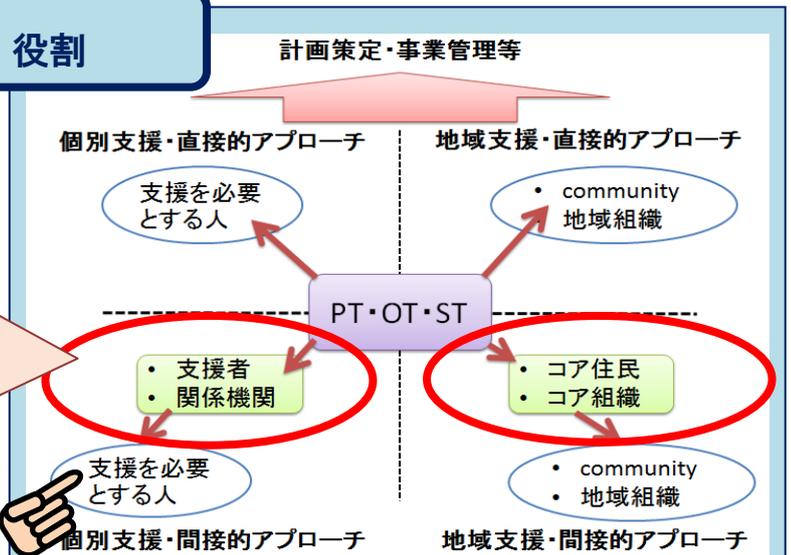
#### 地域リハビリテーションとは？

Keyword は “rehabilitation”



#### 病院・施設のリハ職に求められる力、役割

まずは自分の居場所の仕事をしっかりと果たすこと！そのうえで、これからは、支援者や関係機関、コア住民やコア組織を対象とした**間接的アプローチ**が求められる。いずれにおいても必要なのは**「説明力」「伝える力」**



## 《 第2部 白井市の取り組み紹介 》 リハ専門職に協力していただいている事業

### 「しろい楽トレ体操」アドバイザー派遣事業

理学療法士による  
アドバイス



### 「地域ケア会議」へ助言者として参加



## 《 第3部 グループワーク 》

### テーマ「切れ目のない支援(リハビリ)を目指して、病院と地域を結ぶために何が必要？」

#### ●地域・施設→病院に対して

##### 情報交換

- ・退院時の情報が少ない。専門用語を使わないで分かりやすくしてほしい。
- ・地域連携シートをみてほしい
- ・退院支援に向けて、早く連絡してほしい
- ・本人の興味・関心、リハビリ目標を共有したい

##### 病院の敷居を低くする

- ・気軽に声をかけにくい。病院の連携窓口をはっきりさせてほしい。
- ・退院してからも助言をいただきたい。
- ・退院前カンファレンスの開催は、ケアマネ側から提案しづらい。

#### ●病院→地域・施設に対して

##### 情報共有の機会

- ・家屋調査にケアマネ同席してもらえると情報共有できる。プランへのアドバイスできる。
- ・退院後の生活環境、リハビリの目標設定を関係者で共有したい。
- ・ケアマネが分からない、連絡がとれない。
- ・地域資源や介護サービスの情報を知りたい。
- ・退院後の患者さんの様子を知りたい。病院に情報をフィードバックしてほしい。
- ・退院後の支援者に、介助のポイントなどを直接伝える場があったらいいな。



#### ～参加者アンケートの声～

- 「情報共有、お互いの情報交換が大切」
- 「情報共有のために病院側から歩み寄りたかった」
- 「職種ごとの感じ方、考え方の違いを感じた。他職種の意見を聞ける場が必要。」
- 「お互いに遠慮している。連携する手段があるのに活用していない。」
- 「リハビリのスタッフさんに早速連絡してみようと思う」

次回は、「摂食嚥下」をテーマに12月に開催を予定しています。ご参加をお待ちしています。